

3年学年だよ

第 8 号
平成27年 11月 2日
志賀中学校 3年部会



特集 親子道徳

今回は「家庭や地域と連携して進める道徳研究」の一環として、保護者の皆様にご協力いただいた親子道徳で寄せられた返信の一部を特集してご紹介します。

【親子道徳資料】

彼はいたって短気である。それはいつも電車の中で発揮されることが多い。彼の怒りが頂点に達するのは、自動券売機に入れた千円札が差し戻される時だ。

「俺をなめやがって！」

彼は思いっきり券売機を蹴飛ばす。そしてそのつど足の指を1、2本折ってしまうのである。彼の足にほうたいが巻かれていないのをここ数年、見たことがない。日常生活にも不自由しているようだ。

そんな彼にも彼女ができた。そして足の包帯のことを訪ねられた彼は、正直に悪癖を告白した。彼女はニコッと笑って答えた。

「それは、券売機があなたのことが好きで少しでも長くそばにいたいから、何回も千円札を戻してくるのよ。」

以後、彼の足に包帯が巻かれているのを見たものはいない。毎日働いている。

最初に私（母）が読み、娘がその後読みました。娘に「この文章読んでどう思った？」と聞くと、『この女の人すごいと思った。』と答えました。私も、最初に感じたことと一緒にだったので、「お母さんと同じやねえ。この女の人はい心広いねえ。この彼女によって、彼が救われたんやねえ。」と言うと『そうやねえ』と返してくれました。いつもは、このように親子で話し合うことも少ないので、このような機会を与えて下さったことに感謝しています。



彼の短気な性格に対して彼女が答えた言葉から、彼女が大らかで心の広い人だと思いました。彼の行動は、自分勝手に本当に腹が立ちます。だから、自分だったら彼女のような言葉が出てこないだろうと思いますが、彼女は優しい言葉をかけ、彼に対しての愛情も感じられます。自分たちも彼女のような言葉かけができればと思います。

どんな状況でも、考え方一つで生活をも変えてしまうと言うことを、改めて感じることができました。また、このような考え方、環境を教えるのも大人の役目だと思いました。思い通りにならない状況になると、どうしても不平不満を言いたくなりますが、一人でも多くの方がこの彼女のような心豊かな人になって欲しいと思います。



・彼女の一言で、彼の性格が安定したことは、言葉の力、そして彼女という存在というものは大きいと感じた。

・千円札が戻ってくる。たったそれだけの事でキレてしまう彼の幼少時は、いったいどうだったのだろう……と思った。

・優しい言葉をかけられずに育ってきたのだろうか……。

・親として反省させられる。大きくなって反抗的なことばかり言う息子に、最近優しい言葉をかけることはほとんどなくなってしまった。知らずに彼のようにちょっとしたことでキレる子になってしまうのかもしれない。これを機に、時々思いやる言葉をかけていこうと思う。

・いやしてくれる彼女は心が広く、彼女の生活は安定した良い生活を送っている子だと思う。



彼の短気さと彼女の温厚な性格は、全く正反対。この二人の信頼関係があるから、彼は彼女の言葉を信じてやってみたんだなあと感じました。彼女のような言葉は、私には出ない言葉……。言い方次第で、生活まで変わるんだなあ、私も頭ごなしの言葉ではなく、工夫しなくてはと思いました。



私はサービス業に勤務しておりますが、日々いろいろなお客様と接しております。この資料のように、短気な方や穏やかな方……。 「短期は損気」といいますが、短気な方には周りの接し方も冷たくなります。逆に穏やかな方には、周りも温かく親切に接します。常日頃そういう短気な方を「反面教師」として、自分は穏やかに接していきたいと思っておりますし、娘にも教えているつもりです。易しく穏やかに接してもらおうと嬉しいですし、また、周りにも優しく穏やかに接して欲しいと思っています。



この文章を読んで、この彼女はとても大らかな人で、上手に彼に言葉で伝えているなと思った。最後に包帯を巻かれているのを見た者はいない。毎日働いている。と、書いてあるのを見て、言葉で上手に人に伝えれば言葉は人を変えられる力を持っているんだなと思った。私達も彼女のような気持ちで人と接していきたいと思った。



物事に対しての考え方です。同じ事でも、良い方に考えることと悪い方に考えることとは、結果は大きく違います。私は、日常生活において、「前進あるのみ」を常に心がけています。振り返り、反省することはもちろん大切ですが、それをもとに、どう前に進めばよいか、今後どうすればよいかを考えて対処することが大切だと思っています。完璧ではないですが、後ばかり見ているのは、同じ所にとどまっています、進んでいけないですね。



自分に似ているところがないか？と尋ねると、（ゲームに向かって怒っているが）似ていない。自分だったら、再び千円札を機械に入れる。特に心がけていることや意識することはなく、機械が次に千円札を読み取って作動すればいいだけのこと。冷静、淡々としているが、落ち着くための何かをしているわけではない。文中の彼女の「それは券売機が……」と言われても、心に響いていない。母親が小さい子どもに言って聞かせるような言葉だが、子どもが幼いときに聞くことで気持ちをある程度コントロールするようになっていくのかもしれない。

保護者の皆様…ご協力ありがとうございました。

